

うろこの家と展望ギャラリー

うろこの家は、神戸で最もよく知られている異人館（外国人の家）の一つであり、神戸の異人館建築全体を象徴するものとなっています。基本的には 2 階建ての木造構造ですが、円筒形の城のような 3 階建ての塔があり、これがこの家を地域の著名なランドマークにしています。家の名前は、外装を覆う何千もの魚の鱗（うろこ）に似た貝殻状のスレート瓦に由来しています。この技法はドイツの一部の地域では伝統的なものですが、明治時代（1868-1912）後期にこの家が建てられた当時の日本では全く馴染みのないものでした。この独特なデザインにより、この家は 1998 年に国の有形文化財に指定され、2009 年には兵庫県の「近代住宅 100 選」の一つに選ばされました。1968 年まで人が住んでおり、1977 年に一般公開された最初の異人館となりました。この建物は現在、定期的に内容を入れ替えて歴史的な展示を行う資料館として利用されています。

入り口は中央に配置された塔の基部にあります。階段のある中央ホールから左側に広々とした応接間が開かれています。この部屋には暖炉を挟んで大きなステンドグラスの窓が設えられています。その先には食堂があり、現在は元の邸宅の雰囲気を再現することを目指した博物館級の骨董品が置かれています。アンティークのサイドボードやガラスキャビネットには、ヨーロッパの陶磁器や食器の見事なコレクションが展示されています。壁の一つには初期のモダニズム

画家マルク・シャガールの小さな水彩画が飾られています。1階にはさらに実用的な部屋や応接室、そしてキッチンのある使用人用の翼部があります。2階の図書室は広々としたサンルームに続いており、そこには塔によって形成された半円形の小さな座り込みスペースがあります。繊細な三角形のトレーサリーが施された窓からは、神戸市とその港の素晴らしい眺めが望めます。他にも応接室と2つの寝室があります。より小さい方の寝室は、20世紀初頭の若い男性の部屋であるかのように、アンティークのスポーツ用品が設置されています。2つの寝室をつなぐ短い室内バルコニーがあり、そこから1階の玄関まで見渡すことができます。元々クローゼット

だった場所には、興味深い17世紀の日本の甲冑が展示されています。2階の後ろ側には、1階のキッチンの上に位置する使用人の部屋があります。

うろこの家の隣には、1982年に開館した3階建ての展望ギャラリーがあります。現代的なコンクリート構造のこのギャラリーは、うろこの家 자체をモデルにした塔と魚鱗状のタイルを備えています。2階の壁には、19世紀のバルビゾン派の画家トロワイヨンの絵画や、マティス、ドニ、ユトリロ、デュビュッフェ、その他20世紀前半から中頃の人気ヨーロッパ画家たちの作品が飾られています。他の階は現代アーティストによる企画展示に充てられています。3階の大きな絵窓からは、神戸市のいずれの異人館よりも広大な眺望が得られ、神戸市街、大阪港、淡路島を見渡すことができます。うろこの家と展望ギャラリーは、うろこグループによって運営されています。